

団体名		特定非営利活動法人キッズエナジー（神奈川県鎌倉市） http://www.kids-energy.org/index.html	
団体の概要	活動開始年	西暦 1999年 9月 特定非営利活動法人取得	
	メンバー	人数	<役員数> 6名 <事務局スタッフ数> 5名(有給5名; 事務局を維持していくには、有給スタッフが必要という方針による) <ボランティア数> 100名 <賛助会員数> 130名 <その他> 運営会員 35名 利用会員 140名 ニュース会員 70名
		構成	看護師、保育士、教員免許などの有資格者、またはそのための勉強をしている学生
	予算規模	平成12年度概算 ・収入 約1500万円 ・支出 約1500万円	
団体の目的		闘病中の子どもたちの基本的人権が尊重され、最善の医療を受け日々の生活の質を向上させることができるよう、本人および家族に精神的、物質的支援をする事業を行っていく。また、闘病中の子どもたちの現状を広く社会に伝え、志のあるボランティアを育成する。これらことによって、広く社会全体の子育て環境の改善に寄与することを目的とする。	

ボランティア活動の概要

キッズエナジーという名前の由来は、子どもやその家族をただ援助・支援するのではなく、当事者達のエンパワーメントをしたいという思いからである。主な活動の内容は以下のとおり。

ボランティアの派遣と育成

入院中の多くの子ども達が学習を受けられない不利がある状況をふまえ、病棟やファミリーハウス、自宅など闘病中の子ども達のもとに、プライバシーや感染などについて研修を受けた学習ボランティアや、遊びのボランティアの派遣を行っている。また、闘病中の子どもたちやそのきょうだいは遊びの場を持つ機会がないため、闘病中の子どもも参加できるアウトドアキャンプを企画・実施している。

相談・情報提供事業

小児科の医師による医療相談、元養護学校校長による教育相談、専門家による心理・発達相談、その他、精神面での不安や闘病資金などの相談に対応をする。また、闘病に関するQ & Aや支援団体のリストといった闘病中の子ども達を支援するために必要な情報を提供する。

研究開発事業

病院の環境調査や行政の施策に関する調査などを計画的に行っている。近年注力している事業のひとつに、子ども向けのインフォームドコンセントのツール開発がある。これは、子どもが自分の体で起っていることについて理解をすることで、子ども自身が病気

に主体的に関わっていこうとする心構えを生みだし育てること、そして闘病の主人公として子どもが医療関係者たちとより良い関係を築けることを目的としている。

広報・収益事業

毎月のニュースやメールマガジンの発行、イベントやシンポジウムの開催、ホームページの運営などを通して、難病の子ども達のことを知ってもらうために広報活動をしている。また、活動内容や調査結果を掲載した冊子の出版や、インフォームドコンセントツール等を元にしたオリジナルグッズの商品化、キャラクターの商標ロイヤリティの販売などの収益事業も行っている。

ボランティア活動を立ち上げた経緯

進行性の難病を患った息子に骨髄移植をさせたいが資金の捻出に苦慮していた家族に対して、地域住民や両親の職場の関係者、きょうだいが通う学校から募金活動の申し出があるなど支援の輪が広がった。この支援活動がキッズエナジーの礎となり、治療時の様々な困難さや欲しかった支援策などを痛感していた闘病児の親が、自分の体験と募金の残金を広く難病の子どものために活かそうと会の代表となった。

最初のうちは、身近な同じ病院で、厳しい闘病を余儀なくされている幼い子ども達のサポートを行っていた。ボランティアセンターや医院などでのニュースの配布、家庭支援センターなどとの連携・情報交換、ホームページでの活動紹介などによって、アピールしながら活動を続けた結果、地域にも広く知られるようになり、キッズエナジーの提供する学習ボランティアやプログラムを利用したいという人や、応援したいという人が集まって、団体を法人化することになった。

活用した支援

会の方針として、利用者（闘病児とその家族）の負担を無償にしたかったため、活動資金の調達には必至である。助成金は重要な資金源ではあるが、手続き書類の作成が煩雑なこと、その手続きのために人材の確保が必要になること、助成が決定するか否かで事業の方針が変わってしまうこと、継続した資金調達にはなりえないことなどの問題点もある。そこで、会費で活動費をまかなえるような応援会員組織をつくった。

会の活動が広く知られるようになった現在は、寄付金が収入の大きな割合を占めている。また事務所（活動拠点）として使えるスペースも、無償提供してもらうことができた。

地域のニーズを把握するための工夫

学習ボランティアや遊びのボランティアを派遣し、闘病中の子どもやその家族とふれあう機会を持ち続けることによって、現場のニーズを把握するように努めている。派遣したボランティアには「活動内容を会に報告すること」が義務づけられており、それら进行分析し、対応策をデータベース化しながら、活動を継続している。

今後の課題と展望

会計士や弁護士など、新たな専門家をむかえることによって理事会を充実させたいと考えている。それによって、スタッフの育成に関しても、充実した研修ができる。

また、現場のニーズから生まれたものを基にしたサービスや商品を積極的に収益事業にむすびつけていき、少しでも安定した資金調達ができるように工夫していきたい。

(団体代表者によるレポート、団体資料より作成)

<事例のポイント> 専門家に理事として協力してもらう

小児医療で多くの難病の治療にあたった医師や小児病院の看護師、養護学級の教員などを理事やセミナー講師などの形で、多くの専門家の協力を得ている取り組みである。

組織への支援は、理事会の大きな役割のひとつである。理事会に対しては、理事が持つ専門的知識や人脈を活用して、事務局のスタッフやボランティアに様々な助言を与えたり、資金調達への協力を行ったりすることが求められる。こうした機能を理事会がきちんと果たすとともに、その機能を活動にうまく活用できている好事例である。

<事例のポイント> ボランティアの専門性を高めている

キッズエナジーでは、保育士、看護師、教員免許、介護関係などの有資格者やそれらの専門職をめざす学生を対象として、ボランティアの育成を行っている。育成セミナーは、小児医療の実践者、病院関係者、当事者の経験談などから構成されている。

この事例で行われているようなボランティア活動は、闘病児を対象にしたサービスを行っているため、病気に関する基礎的知識はもちろんのこと、学習指導者としての資質、プライバシーへの配慮など、専門的な要素が多く求められる。このような活動の場合には、ボランティアに定期的に研修や自己研鑽の機会を提供し、知識や技術を習得し常に向上させていくような基盤を整えていく必要がある。

<事例のポイント> 自主財源を創出している

事業の実施や組織運営に必要な資金を調達することは、ボランティア団体にとって大きな課題である。キッズエナジーでは、様々なオリジナル・グッズの販売を通じて闘病中の子どもたちの現状を広く理解してもらうとともに、その収益を闘病中の子どもたちへの支援活動のために使っている。このように、ボランティア団体が活動を継続していくにあたっては、外部からの資金援助に依存するだけでなく、自ら財源を作り出すような工夫も重要である。